

「子供の森」計画

in 中国・内モンゴル自治区



「子供の森」計画積極展開地域：内モンゴル自治区阿拉善地域



2012年の活動と2013年の展望

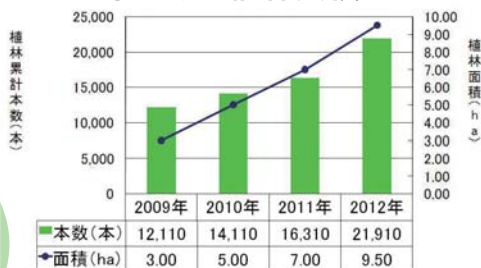
子どもたちの「自然を愛する心」を育みながら地球緑化を進める「子供の森」計画。

近年、中国では黄砂や工場・車の排出ガス等による大気汚染、工場からの廃水などによる水質汚染など様々な深刻な環境問題に直面しています。そのような中、次の時代を担う子どもたちへ、環境について考え、学び、そして行動できるような知識と力を育てる環境教育を進めることが急務となっています。中国・内モンゴル地域では、オイスカの阿拉善沙漠生態研究研修センターを拠点に多くの子どもたちを招き、砂漠の緑化方法や環境問題について教えています。

阿拉善は面積の92%が砂漠で、砂漠化がさらに進行している地域です。黄砂の原因でもあるこの砂漠に緑を回復させるために乾燥に強い植物の研究や植林手法の研究を行いながら活動を進めています。これから多くの子どもたちに、緑化の大切さ、環境問題と人との関係について教え、地域全体にこの活動を広めていきます。黄砂や大気汚染など日本の環境にも大きな影響を与えているこの地域への応援、よろしくをお願いします。

2012年植林実績：植林 **5,600本**・面積 **2.5 ha**
「子供の森」計画参加学校数：7校（2008年からの累計値）

2012年までの植林実績



中国

- ◆人口：1,347.35百万人（2012年IMF推計値 日本は127.896百万人）
- ◆面積：9,596,961km²（総務省統計局資料2010年値 日本は377,950km²）
- ◆一人当たりGDP：5,416.668US\$（2012年10月IMF試算値 日本は45,869.72US\$）
- ◆森林率：22%（2010年FAO公表値 日本は69%）

中国の活動を支援して下さる方を募集しています。
ご支援や各地域の子どもたちの活動の様子はこちらから

ベルマークや書き損じはがきも募集しています。
ベルマークは1点1円として「子供の森」計画の支援となります。
事務局までお送りください。

「子供の森」計画情報提供サイト
www.kodomonono-mori.info



事務局



〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111
<http://www.oisca.org/>

E-mail oisca@oisca.org



モンゴル族の文化を守るため

街の中にあるアラ善(アラシャン)の各学校は敷地が狭く敷地内での植林活動が難しいため、オイスカのアラ善沙漠生態研修センターへ来て緑化活動を行っています。センターまでの距離の問題もあり多くの学校は頻繁には来られませんが、何かと足繁く通ってくれるのがこのアラ善蒙古族完全中学校の生徒たちです。

日々勉強に追われている彼らには、センターでの植林活動は自然と触れ合い環境について学ぶよい機会になっており、大変な作業にもかかわらず皆イキイキと楽しそうに活動しています。砂漠に生息するトカゲを見つけては、追いかけてまわして捕まえる子もいれば逃げ惑う子も。砂漠ネズミの穴を踏んづけて回ったり…一見遊んでいるように見えるこんな様子も、街中では経験できない自然を学ぶ大切な時間です。

先生方からも「普段は街で生活しているため、自然や砂漠に触れ合う機会が少なくなっている」「自然と密接に関わっているモンゴル族の文化を学び守っていくために、このセンターでの植林活動をもっと続けていきたい」と意欲的な声があがっています。



乾燥に強い沙棗(ソージャ)を植えました



砂漠のトカゲ、つかまえた!!



砂漠化を止める方法を学ぶ子どもたち

2011年に100kmほど離れた吉蘭太(ジランタイ)村から巴彦浩特(バインホト)の街へ移動して来たモンゴル族の中学校であるアラ善吉蘭太蒙古族中学校。この学校も街中にあるため、オイスカのセンターで緑化活動を行っている学校の一つです。

日差しを遮るものが何もない砂漠地帯での緑化活動は非常に大変な作業ですが、子どもたちは乾燥に強い低木を植えたり水やりを行ったりと一生懸命に活動しています。



炎天下、一所懸命に活動に取り組む

またその時期に応じた植物の種を取るなど、植物の勉強も同時に行っています。さらにセンターで飼育しているエミューの餌用に植えられたアルファル

ファや菜の花などのマメ科の植物は、砂漠の地でも根に菌類を留めるなど、土壌改良に役立つ可能性があることを知り、みな興味津々。中国をはじめ世界各地で砂漠化の問題が大きくなっている中、自分たちに何が出来るかを考え学ぶ、とてもよい機会となっています。

2013年にはセンターから3kmほどの所に校舎が新設される予定で、今後、より活発な活動が期待されます。



エミューの餌用に植えた菜の花が砂漠化防止につながるかもしれないと興味津々

TOPICS

ホンオニクとニクジュヨウ

ホンオニクはアカザ科の植物の根に寄生する植物で、その肉質茎を乾燥したものはニクジュヨウと呼ばれ、強壮作用のある生薬として知られています。オイスカでは、砂漠地帯で植林を進めているソウソウという植物の根にこのホンオニクを寄生させ収穫し、ニクジュヨウとして販売することで、植林が砂漠化防止や緑化のみではなく地元住民の生活向上のための収入源にもつながるよう取り組みを進めています。この取り組みを始めてから、地元住民の植林協力の意欲が一段と上がり、生活向上と環境回復の両立した取り組みとして注目されています。

ニクジュヨウは生薬として多くの需要がある



ソウソウの根元にホンオニクを寄生させる